

今月の
トピックス

青景圭樹先生(肺がん外科グループ代表者)にご寄稿いただきました

From the Shoulders of Giants to the Future — The Next Generation Reaches for New Heights!

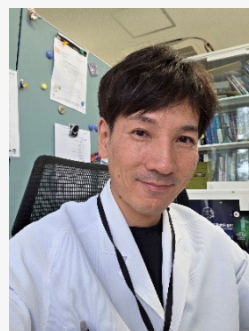
「巨人の肩から未来へ — 次世代はさらなる高みを目指して」

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科の青景圭樹でございます。このたび、2025年9月より渡辺俊一先生の後任として、JCOG肺がん外科グループ代表者を拝命いたしました。

肺がん外科グループは1986年の設立以来、多くの臨床試験を実施し、日本のみならず世界における標準治療の確立に大きく寄与してまいりました。本グループの十八番である小型肺癌に対する縮小手術の試験として、JCOG0201(早期肺癌の画像診断の妥当性)、JCOG0802/WJOG4607L(肺野末梢小型肺癌:肺葉切除 vs 区域切除)、JCOG0804/WJOG4507L(肺野型早期肺癌:縮小切除)、JCOG1211(すりガラス影優位肺癌:区域切除)を実施し、その成果を世に示してきました。さらに現在、JCOG1708(IPF合併肺癌:縮小手術)、JCOG1906(早期肺癌:経過観察)、JCOG1909(IA期高リスク肺癌:区域切除 vs 楔状切除)、JCOG2109(高齢者小型肺癌:区域切除 vs 楔状切除)、JCOG2217(充実成分優位肺癌:肺葉切除 vs 区域切除)を実施しております。

また、最近ホットな周術期治療関連では、JCOG0204(ⅡB-Ⅱ期:術前化学療法)、JCOG9209(N2肺癌:術前化学療法)、JCOG9304(N2肺癌:術後化学療法)、JCOG9101(小細胞肺癌:術後化学療法)、JCOG8601(ⅢA期肺癌:術後補助化学療法)、JCOG8810(ⅢA期T1-2N2肺癌:術前化学療法)、JCOG0707(I期>2cm:術後化学療法)、JCOG1205/1206(高悪性度神経内分泌肺癌:術後化学療法レジメン比較)が過去行われ、現在はJCOG2317(Ⅱ-Ⅲ期:術前療法後手術 vs 手術先行)を実施中です。進行肺癌に対する集学的治療の試験として、JCOG9805(N2肺癌:導入CRT後切除)、JCOG9806(肺尖部胸壁浸潤癌:術前CRT)を行い、現在はJCOG1807C(肺尖部胸壁浸潤癌:CRT+デュルバルマブ)とJCOG2103(ⅣA期胸膜播種:原発巣切除の意義)を進めています。リンパ節廓清に関する試験としては、JCOG1413(選択的リンパ節廓清の意義)を実施しており、その他の試験として、JCOG2012(Ⅱ-ⅢA期:術後サーベイランス)、JCOG9403(胸腔内洗浄細胞診陽性:比較試験)など、多岐にわたる研究を展開してまいりました。諸先輩方の飽くなき探求心と多くの患者さんの協力により、数々の重要な科学的知見が得られ、今後のさらなる研究の発展につながっています。

これら多くの研究の中でも我々の最も重要な成果の一つにJCOG0802/WJOG4607Lが挙げられます。1995年に北米Lung Cancer Study Groupが3cm以下の原発性肺がんに対する機能温存手術の有効性を否定し、長らく肺葉切除が標準とされてきた状況において、本研究は2cm以下の末梢型小型肺がんに対する区域切除の有用性を示し、世界の肺がん外科領域に新たな地平を切り拓きました。本試験はJCOG0804/WJOG4507LとJCOG1211とともに前身であるJCOG0201研究からの一連の成果であり、小型肺癌に対する最適術式を追究してきた本グループの長年にわたる真摯な取り組みの結晶にほかなりません。この偉大な成果は、小型肺がんの病態解明と外科治療開発に先見性と情熱をもって尽力された諸先輩方、そしてその熱意を献身的に支えてくださったデータセンターの皆様のご尽力の賜物であり、ここに深甚なる敬意を表します。



肺がん外科グループ代表者 青景圭樹

私もこのBig trialであるJCOG0802/WJOG4607Lの立案から実施、成果の発表に至るまでを間近に体験できたことが、臨床試験に対する揺るぎない情熱の源泉となっております。そして今後は、まさにJCOG0802という巨人の肩に登ることで、さらなる高みを目指し、サージカルオンコロジーの真髄を究めるために挑戦を続けてまいります。

今後、本グループが目指すものは、多様な背景を有する肺がん患者に対する外科治療の最適化です。薬物療法や放射線治療の進歩を踏まえつつ、外科治療の新たな位置づけを探究し、高品質なエビデンスの創出と国際的プレゼンスのさらなる向上に努めてまいります。

さらに、次世代の育成は我々グループの極めて重要なミッションと考えております。外科治療のみならず、周術期治療の開発にも外科医が関与することは重要であり、多様な臨床研究に携われる若手を育成することは、わが国の存在感を世界的に高めるための最優先課題です。私自身、30代前半の頃にJCOGの会議で日本最高峰のがん研究者による熱気あふれる様々な研究とディスカッションに触れ、大きな感銘を受けた経験を今も鮮明に覚えております。駆け出しの外科医にそのような機会を与えてくださった諸先輩方のご厚意に深く感謝するとともに、その恩恵を次世代へとつなぎ、連綿と続くこの良き循環を決して絶やさぬよう尽くしていきたいと考えております。

肺がん治療は、この10年で飛躍的な進歩を遂げました。しかし依然として、肺がん罹患し治療に難渋される患者も少なくありません。私たちは、がん患者の福祉に資する、社会に貢献できる臨床研究を、JCOG肺がん外科グループ研究者の総力を結集して力強く推進してまいります。

これからのグループのさらなる飛躍のために、皆様の変わらぬご支援と率直かつ貴重なご助言を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

今後とも倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

JCOG肺がん外科グループ代表者

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 青景圭樹

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね！

Xユーザーネーム: @JCOG_official URL: https://x.com/JCOG_official/

Facebookページ URL: https://www.facebook.com/JCOG_official

JCOGウェブサイトのトップページからも関連ページへアクセスいただけます。



JCOG公式SNS

JCOG研究の論文公表

- ◇ 食道がんグループ JCOG1409 竹内 裕也 先生
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41101325/>
Thoracoscopic versus open oesophagectomy for patients with oesophageal cancer (JCOG1409 MONET): a multicentre, open-label, randomised, controlled, phase 3, non-inferiority trial, The Lancet Gastroenterology and Hepatology, 2025 Oct 13. Online ahead of print.
- ◇ 肝胆膵グループ JCOG1113A1 坂本 康成 先生
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41028776/>
Impact of ERCC1 on the outcomes of chemotherapy in advanced biliary tract cancer, Scientific Reports, 2025 Sep 30. Online ahead of print.
- ◇ 食道がんグループ JCOG1314S1 松田 諭 先生
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41160311/>
Safety and efficacy of conversion therapy for metastatic esophageal cancer: exploratory analysis of JCOG1314, Esophagus, 2025 Oct 29. Online ahead of print.
- ◇ 胃がんグループ JCOG1001S4 平尾 素宏 先生
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/ags3.70115>
Influence of Hospital and Surgeon Volumes on Clinical Outcomes After Standard Surgery for Advanced Gastric Cancer: Supplementary Analysis of the Multicenter Randomized Phase III Trial JCOG1001, Annals of Gastroenterological Surgery, 2025 Oct 27. Online ahead of print.
- ◇ 大腸がんグループ JCOG2310AS2 花岡 まりえ 先生
[https://www.ejso.com/article/S0748-7983\(25\)00973-4/fulltext](https://www.ejso.com/article/S0748-7983(25)00973-4/fulltext)
Risk of Peritoneal Recurrence Following Laparoscopic Versus Open Surgery for Stage II/III Colorectal Cancer: An Integrated Analysis of Three Phase III Randomized Controlled Trials (JCOG2310AS2), European Journal of Surgical Oncology, 2025 Oct 26. Online ahead of print.
- ◇ 泌尿器科腫瘍グループ JCOG2011デザインペーパー 寺田 直樹 先生
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41052091/>
Protocol summary of a randomized controlled phase III trial for confirming the superiority of local radiotherapy for prostate cancer patients with high-volume metastasis sensitive to hormonal therapy: the JCOG2011 (HimeRT study), Japanese Journal of Clinical Oncology, 2025 Oct 6. Online ahead of print.

担当医別月間登録数

- ◇ 肺がん内科グループ(月間登録数:2)
春木朋広先生／国立がん研究センター中央病院
國政啓先生／大阪国際がんセンター
 - ◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:5)
寺田志洋先生／信州大学医学部
 - ◇ 胃がんグループ(月間登録数:2)
江原一尚先生／埼玉県立がんセンター
道傳研太先生／金沢大学医学部
 - ◇ 食道がんグループ(月間登録数:3)
伊富貴雄太先生／広島大学病院
 - ◇ 乳がんグループ(月間登録数:4)
高橋侑子先生／岡山大学病院
 - ◇ リンパ腫グループ(月間登録数:2)
三科達三先生／千葉県がんセンター
大間知謙先生／東海大学医学部
口分田貴裕先生／近畿大学病院
 - ◇ 大腸がんグループ(月間登録数:2)
丸山聡先生／新潟県立がんセンター新潟病院
土屋皓平先生／神奈川県立がんセンター
津田政広先生／兵庫県立がんセンター
三口真司先生／県立広島病院
宮本裕士先生／熊本大学病院
 - ◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:3)
丸木雄太先生／国立がん研究センター中央病院
小松久晃先生／大阪国際がんセンター
 - ◇ 消化器内視鏡グループ(月間登録数:2)
ト部祐司先生／広島大学病院
- (担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

グループごと月間登録数

登録数月次レポート
<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	8月	9月	10月	合計
肺がん外科	57	74	60	191
胃がん	27	15	22	64
大腸がん	21	19	22	62
肝胆膵	20	19	19	58
リンパ腫	18	18	20	56
食道がん	12	18	25	55
肺がん内科	9	8	5	22
乳がん	5	7	10	22
消化器内視鏡	5	6	9	20
泌尿器科腫瘍	9	6	4	19
脳腫瘍	5	8	4	17
放射線治療	1	5	7	13
骨軟部腫瘍	2	3	1	6
皮膚腫瘍	0	0	1	1
頭頸部がん	0	0	0	0
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	191	206	209	606



JCOGデータセンターより

● 2025年10月の登録例は209例でした

上位は肺がん外科60例、食道がん25例、胃がんと大腸がんが同数で22例、リンパ腫20例でした。今月は食道がんが2位に食い込みました。また、久々に皮膚腫瘍グループから1例登録がありました。

